

武庫川流域委員会 委員長松本誠様

武庫川を愛する尼崎市民の会
担当 丸尾雅美

環境・町づくりのための基本高水の設定とは——基本高水への議論を深めて

第15回武庫川流域委員会において、傍聴者の私の発言に対する松本委員長の応答とかわって意見書を提出します。

松本誠委員長の指摘とは違って、傍聴者発言は「ひとつ一つの課題ごとに結論を得る議事運営」を求めたのではない。発言の趣旨は、全委員へ活発な討論を促すとともにそのための運営を望んだもの。

基本高水を求めるについて、岡田・奥西・伊藤委員などから観測データの取り扱いや流出解析法の選択など、重要で具体的な論点のいくつかが提示されながら、論議が深まっていない。指摘される論点について、いぜんとして県当局の見解が述べられるに止まり、委員相互が議論を交わして問題の焦点をあぶり出すことに至っていない。

「総合治水計画を策定するために、基本高水をいかに設定するか」がこの委員会の目標ではないか。環境や町づくりを担う委員も、その目標に向かって進まなければならない。河川専門家は、科学的と称してひとつの答えに固執するのではなく、さまざまな選択肢を示す作業をすることが大切な役割である。一方において、自然環境や町づくり農山村づくりなどを担う委員も自らの位置から基本高水の議論に積極的にかかわるべき。言い換えれば、環境を守り良くするには、そして町づくり農山村づくりのためには、基本高水をどう設定するのかを考え主張することが、県民から託された重要な任務なのではないか。

前段の作業に中心的役割を果たすのは、流出解析のWGであることは明らか。流出解析は基本高水決定につながる全委員が取り組むべき本流の作業ではないのか。これが河川専門家を主とする一部のWGで議論されることに懸念がある。議論されたことは委員会に報告されて選択し決定されるとは言うものの、WGに参加しない委員や住民にとっては、議論の経過が分かりにくくなる。前段の河川専門家以外からの意見の重要性から考えても、基本高水の設定への議論がより活発になってこそ、流出解析WGの設置の意味がある。

2005年4月7日